

リハビリテーション科にある機器の紹介

リハビリテーション科 吉村卓也

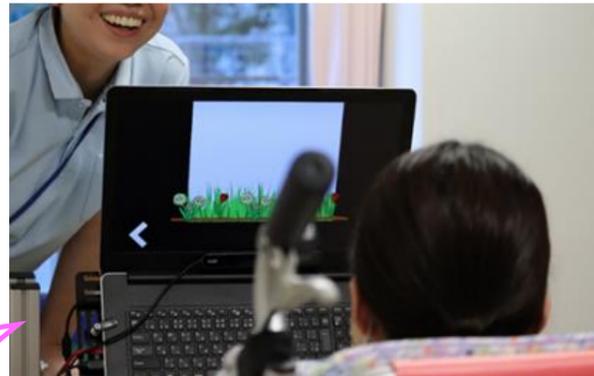
今回は、リハビリテーション科にある様々な機器の一部をご紹介します。

1つ目は外来理学療法室にある「ベビーロコ」です。こちらは自分で操作して室内を移動することができる移動支援機器です。ジョイスティックやボタンスイッチを押すことで操作することができます。主に外来の理学療法に来られるお子さんに使っていただいております。皆さん笑顔で楽しんで操作しています。

幼児期から自分の意志で移動するという経験は、心理社会的能力の発達面において重要であると言われております。お子さん自身で体を動かしていくことに加えて、このような機器も使い、自らの意志で興味・関心・意欲等が高められるような支援ができればと考えております。



こんなふうに、自分で操作して室内を移動することができます



「視線入力装置」を使って、ゲームに取り組んでいます

2つ目は言語聴覚療法（以下S T）部門で使用している「視線入力装置」です。こちらは視線だけで（見つめるだけで）パソコンを操作できる装置です。S T場面では、利用者には視線入力装置のアプリケーションを使った簡単なゲーム等に取り組んでいただいております。利用者の中には、疾患や障害特性から自分の体を自由に動かすことが難しい方がいらっしゃいます。操作には一定時間画面を見続けることが必要なため、すべての利用者が使用できるわけではありませんが、視線入力が可能な場合には主体的に操作や表現をしていただくことで、利用者の自己実現の一助になればと考えております。



〒183-8553
東京都府中市武蔵台2-9-2
東京都立府中療育センター
電話 042(323)5115
FAX 042(322)6207

--*ホームページもご覧ください*-*-*

<http://www.fukushi.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ひだまり

都立府中療育センター新聞 第559号 発行日 令和6年7月31日

摂食嚥下ワーキンググループの活動紹介

摂食嚥下障害看護認定看護師 谷野町子

摂食嚥下ワーキンググループ（以下、摂食嚥下WG）は、府中療育センター栄養サポートチーム（NST）の下部組織として位置づけられています。利用者の皆さんが安心して安全な経口摂取を継続できることを目的として活動しています。

活動を開始してから今年で21年目になります。20年の歩みは一言ではお伝えできませんが、毎日提供される食事の形態を、より利用者の嚥下機能に合ったものにするために栄養科の方と検討したり、利用者が捕食しやすかつ介助しやすいスプーンの形状を検討したりと現在の府中療育センターの食事を支えるための活動を行ってきました。

摂食嚥下WGが特に力を入れている活動は「回診」です。各部署から対象者を選定していただき毎月第3木曜日に実施しています。基本的には各部署1回/年ですが、必要時は「臨時回診」という形で訪問しています。回診では食事の姿勢や、食事の形態、利用者

専門職による「回診」の様子



の様子（食べ方や全身状態）を観察し、介助のポイントをお伝えしながら各部署の職員とその利用者にとってのBetterは何かを一緒に考えていきます。回診は複数の専門職が食事の様子を見に伺うので、利用者にとっては普段と違う環境下になります。そのため回診での情報が利用者にとってBestとはならないこともあるのです。回診での情報共有とその後の各部署での取組があって利用者にとってのBestに近づくのではないかと考えています。

また、今年度から「昼のミールラウンド」を開始しました。回診といった設定された場ではなく日頃の食事場面をちょっと覗きに行きます。そこで気になった方に声をかけさせて頂いたり、職員から相談を受けたりといったやり取りをしながら利用者にとってのBestを目指していきたいと考えています。

利用者の高齢化が問題にされる現在、今まで問題なく摂取されていた方も《なんとなく食べづらそうに感じる…》とか《よくムセるようになった》など日々関わっている職員の皆さんを感じる「あれ？何か違うかも？」がとても大切になります。日々の食事場面で頭に「？」が浮かんだら声に出してみる、それが利用者の皆さんが安心して安全な経口摂取を継続するために私たちができることの第一歩だと思います。

摂食嚥下WGは、これからも各部署と協働しながら利用者の「食べる」を支えていきたいと考えています。



動物とふれあう会



生活療育支援科 柏木奈穂美

2009年から日本動物病院協会の皆さんに来ていただき、ワンちゃんとのふれあいを楽しむ「動物とふれあう会」を開催しています。新型コロナウイルス感染症の感染防止のため数年中止していましたが、昨年度の試行を経てようやく今年度から本格的に再開することができました。今回は2部構成とし30分ずつの交流でしたが「膝やお腹の上ののりでもらい温もりを感じた」「目の前までワンちゃんが来てくれると目を丸くしていた」「笑顔でワンちゃんの頭をなでていた」「初めての参加なのに、和やかな雰囲気緊張することなく直ぐに手を伸ばしてワンちゃんとの交流を楽しんだ」と、それぞれに楽しい時間を過ごすことができました。今回は久しぶりの開催となったため、ワンちゃんに会えることを楽しみにして朝からワクワクが止まらなかった利用者もいました。

今年度はあと3回会いに来てくれる予定です。多くの方にワンちゃんとのふれあいを楽しんでもらいたいと思います。



バスハイク

3C病棟 高橋奈実

6月27日にバスハイクで「南極・北極科学館」に行ってきました。当初はJRA競馬博物館に行く予定でしたが、休館日と重なってしまい、行き先を変更しました。

梅雨入りしたばかりでしたがお天気にも恵まれ、日差しが暑いくらいの気温でした。バスの中では心地いい揺れにウトウトしている利用者もいらっしゃいました。

館内では実際に南極の氷を触ったり、ペンギンや大きなホッキョクグマの剥製を見学しました。剥製のあまりの大きさに圧倒された表情をしている方もいました。

最後にオーロラシアターの中で天井に映るオーロラの映像を見てリラックスしてから帰って来ることができました。



ホッキョクグマにびっくり!



ようこそ通園へ

地域療育支援科担当科長 星千賢 通園担当



令和4年6月の改正児童福祉法における児童発達支援センターの福祉型、医療型の一元化をうけ、府中療育センターは令和6年4月より児童発達支援センター通園としてスタートしました。これまでの支援体制を確保しながら、関係機関との連携やインクルージョンの支援体制の推進を強化していきます。また、総合的な支援の推進として5領域(※)とのつながりを明確

にした個別療育計画を策定して支援の提供をしていきます。 ※「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」

さて、通園の様子をご紹介します。ゴロンのお友だちから、走って築山を登ってしまうお友だちなどいろいろなお子さんが通ってきてくれています。対象は1歳～就学前のお子さんと保護者です。年齢と登園日数によって4クラスに分かれています。1～2歳児はいちご組14名、2～3歳児はばなな組17名、3～5歳児はめろん組14名とぶどう組14名の2クラスで、合計59名のお友だちが通ってきてくださっています。途中入園は随時募集していますので、まだまだお友だちは増えていく予定です。

どんな活動をしているかという点、親子通園を行っているのでお子さんと保護者と職員が一緒にたくさん遊んでいます。遊ぶ前には親子でスキンシップタイム、お子さんの身体全体を歌に合わせてじっくりとさわっていきます。手足、身体を伸ばしたりマッサージしたり、準備体操でもありリハビリでもあります。「ここをさわると気持ち良さそう」とか、「ここをさわるといつも嫌がるな」とか、お子さんの様子を感じていただいています。おもちゃや絵本、ブランコにすべり台、トンネルをくぐったり、技巧台で1本橋をわたったり、布団の坂をすべり降りたり、たくさんの遊具で身体をいっぱい動かして遊びます。時に静か?に、絵具やクレヨンを使って季節の制作にじっくりと取り組んだり、スズランテープや紙をやぶくのりで没頭したり、小豆や寒天をじっくり触ったり、スノーズレンやボールプールに入ることもあります。ピアノの伴奏で四季折々の歌を歌ったり、毎月数回音楽療法の先生も来てくれて楽器の演奏も楽しんでいます。まだまだ、その季節にしかできない行事や遊びもあります。遠足や運動会、おたのしみ会、七夕やお餅つき、そして夏はなんとといってもプール、水あそびでしょうか。

通園では1年を通してたくさん遊び、いろいろな経験を積み重ねていきます。苦手だったものができるようになったり、他のお友だちと関わる中でお友だちを意識したり、どんどん成長していきます。親子で自信をもって卒園していただけるようにサポートいたします。通園の見学についても受付をしていますので、いつも楽しい声が響く通園にいらしてください。

